

日中母語話者の「意外な展開」の語り における接続表現 場面別の分析を中心に 許 亜寧

◆要旨

本 研究では、「意外な展開」において、日本語母語話者（JNS）と中国語母語話者（CNS）がどのような接続表現を使用しているかを場面別に分析し、両者の特徴について考察を行った。その結果、次のようなことが分かった。1) JNSは主に〈逆接〉を多用し、場面によって、〈継起①〉〈継起②〉も多用している。ここから、JNSは言語表現を駆使することによって、ストーリーの意外性を語り手が提示し、聞き手がストーリーの意外性をうまく掴むように導く特徴があることが示唆された。2) CNSは主に〈継起①〉を多用し、場面によって、〈結果〉〈不使用〉も選択している。ここから、CNSは生起した出来事を時間順に並べて提示し、ストーリーの意外性をどのように認識するかは言語表現で表現せず、聞き手の理解と解釈に任せる特徴があることが示唆された。

◆キーワード

意外な展開、語り、接続表現、場面別、日中母語話者

◆ABSTRACT

This study analyzed and examined the features of the connective expressions used by Japanese native speakers (JNS) and Chinese native speakers (CNS) in unexpected development episodes by scene. The conclusions of this study were as follows. On one hand, JNS tended to use <contrastive connections>, and depending on the situation, they also used <succession ①> and <succession ②>. From this result, it was suggested that JNS prefer that the narrator presents the unexpectedness of the story by making full use of linguistic expressions and leads the listeners to grasp the unexpectedness of the story well. On the other hand, CNS tended to use <succession ①>, and they also used <result> and <nonuse> depending on the situation. From this result, it was suggested that CNS prefer that the narrator presents the events in chronological order. In addition, instead of expressing how they recognize the unexpectedness of the story in linguistic expressions, they prefer to leave it to the understanding and interpretation of the listeners.

◆KEY WORDS

unexpected developments, narratives, connective expressions, different scenes, Japanese and Chinese native speakers

Connective Expressions in Narratives of Unexpected Developments by Japanese and Chinese Native Speakers Focusing on the Analysis by Scene

XU YANING

1 はじめに

言語の違いによって、語りの表現選択（名詞や接続表現など）に差異が現れることは従来の研究で指摘されている（渡邊1996, 鳥2012など）。日本語学習者はストーリーを語る際に、母語の影響を受け、母語の語り方を採用する可能性があるため、日本語母語話者にうまく理解してもらえなかったり、聞き手に違和感を与えてしまったりするといったことがある。本研究では、意外性のある場面についての語りにおける日中母語話者の特徴に注目する。意外性を表す手段としては、接続表現が重要な役割を果たしていると考えられるため（小口2017, 砂川2017）、本研究では、「意外な展開」で使用される接続表現に焦点を当てる。

ここでは、「前の文脈から一般的に予想される出来事と実際の出来事が異なっていること」を「意外性」と呼び、「意外性を有する出来事への展開」を「意外な展開」とする（許2021）。また、ここでいう「意外性」には、「わずかな予想外」から「予想と正反対である予想外」まで、様々な程度が含まれる。先行研究では、「意外な展開」において、日本語母語話者と日本語学習者が使用している接続表現について分析は多く行われているが、学習者の母語に注目したものは極めて少ない。

この「意外な展開」には、前後の出来事が継起的に生起している場合と、同時に生起している場合があると考えられる。本研究では、継的に生起している「意外な展開」に注目し、日本語母語話者（以下、JNSと呼ぶ）と（日本語学習経験のない）中国語母語話者（以下、CNSと呼ぶ）がそれぞれどのような接続表現を使用しているかを場面別に分析し、両者の特徴を明らかにすることを目的とする。

2 先行研究

日本語と中国語の「意外な展開」の語りにおける接続表現に関する研究として、渡邊（1996）がある。渡邊（1996）では、4コマ漫画を調査材料とし、日本語母語話者と中上級日本語学習者の日本語、学習者の母語のデータを収集し、展開の過程で使用されている接続表現について分析している。その結果、「意

外な展開」(渡邊1996では「逆接展開場面」)においては、日本語母語話者は継起の接続助詞「たら」をもっとも多用しているが、中国語母語話者は日本語では、逆接の接続助詞や、「完結文+逆接の接続詞」を使用し、中国語では、「完結文+逆接の接続詞」を使用する特徴があることが分かった。

また、日本語と中国語に関する分析ではないが、「意外な展開」における日本語学習者の接続表現使用に関する研究として、小口(2017)、砂川(2017)、許(2021)がある。小口(2017)、砂川(2017)、許(2021)はいずれも日本語母語話者と日本語学習者による日本語のデータを用いて分析を行っている。まず、小口(2017)では、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(以下「I-JAS」とする)で収録された日本語母語話者と中級日本語学習者のデータを用いて、「バスケットを開けた→犬が飛び出してきた」という意外な場面で使用された表現形式について分析している。その結果、日本語母語話者は「と」「とたん(に)」「すると」「ところ」などを使用しているのに対し、学習者は「時」「て」を多用する傾向があることが分かった。また、砂川(2017)では、I-JASで収録された日本語母語話者と中級日本語学習者のデータを用いて、「梯子で2階にのぼろうとする→警官に見つかり注意される」という意外性のある場面で使用された順接表現について分析を行った。その結果、日本語母語話者は「～と」「～ところ」「すると」を使用しているが、日本語学習者は「指示詞+とき」「～とき(に)」を使用していることが分かった。さらに、許(2021)では、継起的に生起している4種類の「意外な展開」において、日本語母語話者と上級中国人日本語学習者が使用している接続表現について場面別に分析を行った。その結果、日本語母語話者は「～んですけど」類と〈タラ系〉で場面の意外性を表しているが、中国人日本語学習者は「でも」を用いて場面の意外性を表現する傾向があることが分かった。

このように、「意外な展開」の語りにおける接続表現については、日本語学習者の日本語に注目する研究が多く行われてきたが、学習者の母語に注目する研究は渡邊(1996)のみである。また、先行研究の結果は微妙に異なっており、「意外な展開」の場面が違うと、使用される接続表現も異なると考えられる。そのため、場面別の分析が必要であると言える。そこで、本研究では、継起的に生起している「意外な展開」において、JNSとCNSがどのような接続表現を

使用しているか場面別に分析し、両者の特徴を明らかにする。

3 調査概要

本調査では、20～30代のJNS（12名、JNS01～JNS12）、日本語学習経験のない20～30代のCNS（12名、CNS01～CNS12）に調査を行った。聞き手については、語り手の友人か知り合いであるJNS（8人）とCNS（7人）に協力してもらった。また、調査資料として用いたのは、E. O. Plauenの『Vater und Sohn』（日本語訳：『おとうさんとぼく』）という漫画集である。この漫画集から、1) 「意外な展開」がある、2) ストーリーの内容が比較的分かりやすい、3) 文字がほぼないという3つの基準で、4つの漫画を選出した（稿末の資料で示す）。調査手順は以下の通りである。

- (ア) 語り手と聞き手に調査手順を伝える。その後、聞き手に一時的に退室してもらう。
- (イ) 語り手に漫画を見せて内容を十分に理解してもらう。分からない場合は調査者に聞いても構わない。
- (ウ) 読み終わったら、聞き手はまだ漫画を読んでいないことを伝え、その内容を聞き手に伝えるように指示する。
- (エ) 聞き手には調査が終了するまで漫画の内容を見せずに、相槌を打ってもいいことと、質問がある場合は語りが終わった後に質問するように指示する。
- (オ) 聞き手に向かって、語り手に漫画を見ながら語ってもらう。

4 分析対象と分析方法

2つの出来事の時間的關係は大きく継起と同時に分類できる（工藤1992）。先行研究で扱っている場面と本研究で資料とした漫画集（『Vater und Sohn』）について確認した結果、継起的に生起している「意外な展開」がほとんどであったため、本研究では、継起的に生起している「意外な展開」を分析対象とする。また、継起の場合、前後件の時間間隔によって、時間間隔が非常に短い「継起・

接近」(場面①)、時間間隔が比較的長い「継起・間隔」(場面③)、両者の中間である「継起・中間」(場面②)、継起的に生起しているが、併存している期間がある「継起・併存」(場面④)に分類することができる。以下の4つの場面は上記に対応する場面である(「→」の前が前件、後が後件である)。また、この4つの場面はいずれも意外性が強いと思われる漫画のオチ部分である。

場面①「虎が追いかける」場面(漫画Ⅰ:4コマ目→5コマ目):

親子が虎を蛇の口から救出する→親子を見つけた虎が親子を追いかける

場面②「助けられた人が怒る」場面(漫画Ⅱ:4コマ目→5コマ目):

お父さんが川で溺れている人を助け、岸边に連れて行く

→助けられた人が怒る

場面③「リンゴが落ちる」場面(漫画Ⅲ:6コマ目:出来事A→出来事B):

親子が諦めて帰る→リンゴが木から落ちる

場面④「子供たちが仲良くなる」場面(漫画Ⅳ:5コマ目→6コマ目):

お父さんたちが殴り合いになる→子供たちがつまらなくなり、遊び始める

また、分析対象となる接続表現は、「意外な展開」の後件の直前に使用されたものである。中国語では、日本語の接続表現に該当するものを「連詞」と呼ぶことが多いが、便宜上、本研究では、「接続表現」と呼ぶ。張(2000)によると、中国語の連詞は多次元の接続機能をもつ機能語であり、語と語、フレーズとフレーズを接続するだけでなく、節と節、文と文を接続することもできる。本稿では、節と節、文と文を接続する連詞を分析対象とする。本稿で扱う接続表現には、文頭・節頭の接続表現(「でも」「但是」など)、文末・節末の接続表現(「～けど」「～之后」など)、および連用中止形が含まれている。なお、1つの「意外な展開」で抽出された接続表現の数は0～2である。例えば、例(1)では接続表現は使用されていないため、ここでは、「不使用」と判断する。また、例(2)の場合は、「～て+結局」をセットで抽出する。

(1) 两个家长打起来了。两个儿子在那自己玩。(二人の保護者は喧嘩を始めた。

二人の息子さんはそこで遊んでいる^[註1]。)

(CNS12)

(2) 終いにはお父さん同士がこう殴り合いの喧嘩になって、結局子どもじゃなくて、大人同士が喧嘩になってしまったっていうお話です。(JNS07)

分析方法については、まず、上記の基準で、「意外な展開」(JNS: 48箇所、CNS: 48箇所)における接続表現を抽出した。次に、砂川(2017)と許(2021)を参考に、表1のように観察された接続表現を分類した。さらに、各場面において、JNSとCNSがそれぞれどのような接続表現を使用しているかについて分析を行った。最後に、JNSとCNSの特徴について考察を行った。

表1 接続表現の分類

| | | 日本語 | 中国語 |
|----|--------------------|--|--|
| 逆接 | | でも、しかし、だけど、逆に、～けど、～が、～けれど、～けれども、～と思いきや | 但是(しかし)、然而(しかし)、可是(しかし)、不料(ところがどうして) |
| 継起 | 継起①(意外性を表すことができない) | で、そのあと(に)、～て、～たあと(に/で)、～たところで、中止形 | 然后(それから)、后来(そのあと)、～之后(～たあと)、～后(～たあと)、～以后(～たあと) |
| | 継起②(意外性を表すことができる) | そしたら、そうすると、～たら、～たところ | — 〈中国語では存在していない〉 |
| 同時 | | — 〈今回のデータでは観察されていない〉 | 在这时(このとき)、此时(このとき)、～的时候(～とき) |
| 近接 | | ～たとたん、～た拍子に | 立马(すぐに)、～那一刻(～瞬間) |
| 結果 | | 結局、最後、その結果、～た結果 | 最后(最後)、结果(最終的に) |

接続表現の分類については、「意外な展開」で使用された接続表現を大きく〈逆接〉〈継起〉〈同時〉〈近接〉〈結果〉という5種類に分類した。具体的には、〈継起〉は「～たあと」のように、前件が終わったあとに後件が生じたことを表すものである。〈同時〉は「このとき」のように、前件と後件が同じタイミングで生じたことを表すものであり、〈近接〉は「～たとたん」のように、前件が生じた後、後件が即座に生じたことを示すものである。〈結果〉は「最後」のように、後件が結末であることを示すものである。また、加藤(2003)、

砂川 (2017) に基づき、〈継起〉をさらに、意外性を表すことができない〈継起①〉と、意外性を表すことができる〈継起②〉に分類した。

5 分析結果

この節では、JNSとCNSが各場面において、どのような接続表現を使用しているかについて分析する。

5.1 場面①「虎が追いかける」場面（「継起・接近」）

まず、場面①で使用された接続表現について分析する（表2）。

表2 「虎が追いかける」場面で使用された接続表現

| | JNS | | CNS | |
|---------|-----------------|----|---------------------------------|----|
| | 接続表現 | 合計 | 接続表現 | 合計 |
| 逆接 | ～けど4、～が2、～けれども1 | 7 | 但是（しかし）1 | 1 |
| 継起① | ～て1、～たあと1 | 2 | ～之后（～たあと）3、～以后（～たあと）3、～后（～たあと）1 | 7 |
| 近接 | ～たとたん1、～た拍子に1 | 2 | — | 0 |
| 結果 | ～た結果1 | 1 | 最后（最後）1 | 1 |
| 継起①+継起① | — | 0 | ～之后+然后（～たあと+それから）1 | 1 |
| 継起①+結果 | — | 0 | ～之后+結果（～たあと+最終的に）1 | 1 |
| 不使用 | — | 0 | 不使用1 | 1 |
| 合計 | — | 12 | — | 12 |

場面①では、JNSは〈逆接〉（7回）、〈継起①〉（2回）、〈近接〉（2回）、〈結果〉（1回）を使用している。以下、使用が多く見られた〈逆接〉の例を示す。

- (3) 無事蛇の口から虎は抜けるんですけど、それを見た虎は今度お父さんと息子を追っかけて、襲っているというところです。(JNS08)

一方、CNSの場合は、〈継起①〉(7回)、〈逆接〉(1回)、〈結果〉(1回)、〈継起①+継起①〉(1回)、〈継起①+結果〉(1回)を使用しており、〈不使用〉も1回見られた。CNSはJNSと異なり、〈逆接〉の使用が少なく、〈継起①〉の使用が最も多かった。以下、〈継起①〉の例を挙げる。

- (4) 得救了以后，嗯…看到就是，#扭头看到爸爸和儿子，就是疯狂地追他们。
 (助けられたあと、えっと見つけたあのお、#[註2] 振り返って、お父さんと息子さんを見つけた。狂ったように彼たちを追いかけた。) (CNS01)

5.2 場面②「助けられた人が怒る」場面（「継起・中間」）

次に、場面②で使用された接続表現について分析する(表3)。

表3 「助けられた人が怒る」場面で使用された接続表現

| | JNS | | CNS | |
|--------|---------------------------------|----|--------------------------|----|
| | 接続表現 | 合計 | 接続表現 | 合計 |
| 逆接 | ～けど3、～が1、～けれど1、 だけど1、～と思いきや1 | 7 | 然而(しかし)1 | 1 |
| 継起① | ～て1 | 1 | ～之后(～たあと)3、 然后(それから)1 | 4 |
| 継起② | そしたら2、～たら1、 そうすると1 | 4 | — | 0 |
| 同時 | — | 0 | ～的时候(～とき)2 | 2 |
| 結果 | — | 0 | 結果(最終的に)3 | 3 |
| 継起①+近接 | — | 0 | ～之后+立马(～たあと+すぐ に)1 | 1 |
| 不使用 | — | 0 | 不使用1 | 1 |
| 合計 | — | 12 | — | 12 |

場面②では、JNSは〈逆接〉(7回)、〈継起②〉(4回)、〈継起①〉(1回)を使用している。以下、使用数が多かった〈逆接〉と〈継起②〉の例を挙げる。

- (5) で、お父さんが3コマ、3コマと4コマで救出するんですけど、その助

けられた人が怒っていて。 (JNS01)

- (6) 慌てて水に飛び込みその人をあわ、えっと、抱きかかえるようにして上に上がりました。そうすると、その男はお父さんを殴ります。(JNS09)

一方、CNSの場合は、〈継起①〉(4回)、〈結果〉(3回)、〈同時〉(2回)、〈逆接〉(1回)、〈継起①+近接〉(1回)を使用しており、〈不使用〉が1回見られた。以下、〈継起①〉と〈結果〉の例を挙げる。

- (7) 把他抱上来之后，运动员向他，就是很生气地向他，很生气地说：“我是运动员，你干嘛要把我抱上来”。(彼を抱きかかえて上に上がったあと、スポーツ選手はすごく怒って、「私はスポーツ選手だ。なんで私を上に乗ってきたんだよ」と言った。) (CNS09)
- (8) 然后抓住那个，那个游泳的人，救上岸。结果被游泳的那个人指责。(それからその泳いでいる人を掴んで、岸边に連れていった。その結果その泳いでいた人に責められた。) (CNS07)

5.3 場面③「リングが落ちる」場面 (「継起・間隔」)

場面③で使用された接続表現は表4の通りである。

場面③では、JNSは〈継起①〉(5回)、〈継起②〉(4回)、〈逆接〉(1回)、〈逆接+継起①〉(1回)、〈継起②+継起①〉(1回)を使用している。例(9)と例(10)は使用が多く見られた〈継起①〉と〈継起②〉の例である。

- (9) 帰ったあとに、そのリングが、リングが落ちました。 (JNS02)

- (10) 親子が諦めて帰ったら、リングが落ちたという話、話でした。(JNS01)

それに対し、CNSは〈継起①〉(4回)、〈結果〉(2回)、〈逆接〉(1回)、〈近接〉(1回)、〈結果+同時〉(1回)を使用しており、〈不使用〉が3回見られた。つまり、CNSは〈継起①〉を多用しているが、接続表現を使用しない特徴も目立っている。以下、〈継起①〉と〈不使用〉の例を示す。

表4 「リングが落ちる」場面で使用された接続表現

| | JNS | | CNS | |
|---------|------------------------|----|-------------------------------------|----|
| | 接続表現 | 合計 | 接続表現 | 合計 |
| 逆接 | ～けど1 | 1 | 不料（ところがどうして）1 | 1 |
| 継起① | ～たあと（に／で）4、～たところ で1 | 5 | ～之后（～たあと）2、～以后（～ たあと）1、～后（～たあと）1 | 4 |
| 継起② | ～たら3、～たところ1 | 4 | — | 0 |
| 近接 | — | 0 | ～那一刻（～瞬間）1 | 1 |
| 結果 | — | 0 | 結果（最終的に）2 | 2 |
| 逆接+継起① | ～が+そのあと1 | 1 | — | 0 |
| 継起②+継起① | ～たら+そのあとに1 | 1 | — | 0 |
| 結果+同時 | — | 0 | 結果+在这时（最終的に+この とき）1 | 1 |
| 不使用 | — | 0 | 不使用3 | 3 |
| 合計 | — | 12 | — | 12 |

- (11) 当他们走后，苹果哐掉下来了。（彼たちが離れたあと、リングがガタンと落ちた。） (CNS06)
- (12) 两个人都走了。苹果掉下来了。（二人が帰った。リングが落ちた。） (CNS10)

5.4 場面④「子供たちが仲良くなる」場面（「継起・併存」）

最後に、場面④で使用された接続表現について分析する（表5）。

場面④では、JNSは〈逆接〉（5回）、〈継起①〉（3回）、〈継起①+結果〉（3回）、〈逆接+逆接〉（1回）を使用している。その中、〈逆接〉〈継起①〉〈継起①+結果〉の使用が比較的多かった。以下、例を挙げる。

- (13) そのあと、お父さんは殴り合いの喧嘩になります。でも殴り合いの喧嘩に子どもたちは感心もせず、一緒に仲良く遊んでいます。 (JNS09)
- (14) そして最終的には殴り合いの喧嘩が始まります。でえっと、すごく喧嘩をしている横で子どもたちは仲良く遊んでいる、友達になるというストーリーです。 (JNS11)

表5 「子供たちが仲良くなる」場面で使用された接続表現

| | JNS | | CNS | |
|--------|----------------------|----|--------------------------------|----|
| | 接続表現 | 合計 | 接続表現 | 合計 |
| 逆接 | ～けど2、～が2、でも1 | 5 | 可是（しかし）1 | 1 |
| 継起① | で2、中止形（「～てしまい」）1 | 3 | ～之后（～たあと）1、后来（そのあと）1、然后（それから）1 | 3 |
| 結果 | — | 0 | 結果（最終的に）2、最后（最後）1 | 3 |
| 継起①+結果 | で+その結果1、で+最後1、～て+結局1 | 3 | — | 0 |
| 逆接+逆接 | ～けど+逆に1 | 1 | — | 0 |
| 結果+同時 | — | 0 | 結果+此时（最終的に+このとき）1 | 1 |
| 不使用 | — | 0 | 不使用4 | 4 |
| 合計 | — | 12 | — | 12 |

(15) 終いにはお父さん同士がこう殴り合いの喧嘩になって、結局子どもじゃなくて、大人同士が喧嘩になってしまったっていうお話です。(JNS07)

一方、CNSは〈不使用〉(4回)が最も多く、その他に、〈継起①〉(3回)、〈結果〉(3回)、〈逆接〉(1回)、〈結果+同時〉(1回)を使用している。〈不使用〉〈継起①〉〈結果〉の使用が比較的多かった。以下、例を示す。

- (16) 两个家长打起来了。两个儿子在那自己玩。(二人の保護者は喧嘩を始めた。二人の息子さんはそこで遊んでいる。)(CNS12)
- (17) 结果两个小孩的战争变成了两个大人的战争。然后两个小孩在旁边一起玩耍起来。(最終的に二人の子供の戦いが二人の大人の戦いになった。それから二人の子供はそばで一緒に遊び始めた。)(CNS11)
- (18) 两个人就打了起来。结果小明和小亮开心地玩在了一起。(二人は喧嘩を始めた。最終的に明さんと亮さんは楽しく一緒に遊んだ。)(CNS06)

6 考察

前節では、JNSとCNSが各場面で使用している接続表現について分析を行った。各場面で使用が多く見られた接続表現（使用回数が3回以上）を表6にまとめた。

表6 各場面で使用数が多かった接続表現

| | 場面① | 場面② | 場面③ | 場面④ |
|-----|------|----------|-----------|----------------------|
| JNS | 逆接7 | 逆接7、継起②4 | 継起①5、継起②4 | 逆接5、継起①3、 継起①+結果3 |
| CNS | 継起①7 | 継起①4、結果3 | 継起①4、不使用3 | 不使用4、継起①3、 結果3 |

表6から、JNSは主に〈逆接〉を多用し、場面によって、〈継起①〉〈継起②〉も多用していることが分かった。まず、〈逆接〉について、逆接の基本的性格と表現価値について分析している石黒（1999）では、「前件から推論される前提の後件の内容と、実際の逆接の後件の内容とが異なることから生み出される意外性が、ある種の感情的意味を生み出すところに逆接の表現価値の一つがあるように思われる」（p.119）と述べている。つまり、〈逆接〉の使用によって、語り手の「意外」という感情が表現されると考えられる。表6から、JNSは場面①②④で〈逆接〉を多用していることが分かる。これはこの3つの場面における後件の内容が、前件からの推論と大きく異なるためであると考えられる。例えば、場面①では、前件から、「虎が親子に感謝する」あるいは「虎が逃げる」ことが予想されるが、実際は「虎が親子を攻撃する」という正反対の結果になった。一方、場面③にも同じような特徴があるが、登場人物がその場を離れたため、登場人物自身は意外性を感じなかったという点において、他の場面と性質が異なっている。それが〈逆接〉の使用率が低いことに繋がっている可能性があると思われる。次に、〈継起①〉〈継起②〉の使用も多く見られた。今回扱っている場面は前後件の出来事がいずれも継起的に生起しており、その継起関係を示すために、〈継起①〉〈継起②〉が多用されたと考えられる。また、上述のように、〈継起②〉は継起関係を示すだけでなく、意外性を表すこともでき

るため、継起的に生起している「意外な展開」に適した表現であると言える。

以上をまとめると、JNSは言語表現（ここでは、接続表現の〈逆接〉〈継起②〉を指す）を駆使することによって、ストーリーの意外性を語り手が提示し、聞き手がストーリーの意外性をうまく掴むように導く傾向があると言える。ここでは、語り手が聞き手のストーリーの理解を誘導しているように見えることから、その特徴を「語り手誘導型」と名づける。

一方、CNSは主に〈継起①〉を多用し、場面によって、〈結果〉〈不使用〉も選択している。まず、〈継起①〉については、いずれの場面においても多用されている。ここから、CNSは「意外な展開」において、生起した出来事を時間順に並べて提示する傾向があることが分かる。次に、〈結果〉については、「結果」という接続表現の使用が多く見られ、いずれの場面でも使用されている。刘（2019）では、「結果」は連詞として、「結果は何か」を強調し、聞き手の注意を引きつけ、語り手の「意外」という感情を示す働きを持っていると述べている。今回扱っている「意外な展開」の後件はいずれも漫画の結末であるため、「結果」が多用されたと考えられる。また、「結果」の使用により、聞き手の注意を引きつけ、場面の意外性を聞き手に伝えることもできると考えられる。さらに、〈不使用〉については、中国語における「意合法」という特徴に影響されていると考えられる。王（1943）では、前後件を接続する語が用いられない場合を「意合法」と呼び、中国語の複文は意合法であることがよくあると述べている。そのため、接続表現を使用せずに、場面を展開するケースが多く現れたと考えられる。最後に、JNSが多用し、CNSがほとんど使用していない〈逆接〉について述べる。これは、中国語の「意合法」とも関連しており、陳（1993）が述べているように、中国語では、行間に逆接関係を読み取れても、“但是”系を使わない場合が多く、特に複雑な論理関係が必要ない日常会話では、この傾向が一層強く見いだされる。一方、日本語では、〈逆接〉は省略されにくいという特徴がある（市川1978,馬場1999）。

つまり、CNSは〈継起①〉を多用して生起した出来事を時間順に並べたり、「結果」を用いて場面の意外性を表したりする傾向があると言える。また、「意合法」との関連から〈逆接〉は使われにくく、接続表現が使用されない傾向も見られた。

しかし、意外性を表す方法として、接続表現以外に、副詞や登場人物の状態

を表す表現も挙げられる(小口2017)。今回CNSのデータに現れた意外性を表す表現^[註3]について確認した結果、副詞^[註4]の「却(却って)」(3回)「反(逆に)」(1回)と、「心理動詞の「吓(驚く)」(「把小明和爸爸吓得赶紧跑(明さんとお父さんが驚いて、急いで逃げた)」(場面①))、登場人物の心理発話である「很奇怪,为什么打我呀(おかしい、なんで私を殴ったの)」(場面②)が使用されているが、全体から見ると、使用数(6例)が多いとは言えない。

以上から、CNSは生起した出来事を時間順に並べて提示し、ストーリーの意外性をどのように認識するかは言語表現で表現せず、聞き手の理解と解釈に任せる傾向があると考えられる。ここでは、語り手がストーリーの理解を聞き手に委ねているように見えることから、その特徴を「聞き手委ね型」と名づける。

7 まとめと今後の課題

本研究では、継起的に生起している4種類の「意外な展開」において、JNSとCNSがどのような接続表現を使用しているかを分析し、両者の特徴について考察を行った。その結果は以下の通りである。

1) JNSは主に〈逆接〉を多用し、場面によって、〈継起①〉〈継起②〉も多用している。ここから、JNSは接続表現を駆使することによって、ストーリーの意外性を語り手が提示し、聞き手がストーリーの意外性をうまく掴むように導く(「語り手誘導型」)特徴があることが示唆された。

2) CNSは主に〈継起①〉を多用し、場面によって、〈結果〉〈不使用〉も選択している。ここから、CNSは生起した出来事を時間順に並べて提示し、ストーリーの意外性をどのように認識するかは言語表現で表現せず、聞き手の理解と解釈に任せる(「聞き手委ね型」)特徴があることが示唆された。

このように、JNSとCNSは「意外な展開」を語る際に、異なる接続表現を使用する傾向があることが示された。本研究を通して、中国人日本語学習者に対し、「意外な展開」の語りにおける日本語と中国語の違いを認識させる必要があることが示唆された。また、中国語には〈継起②〉のような表現が存在しておらず、中国人日本語学習者にとって、「意外な展開」における〈継起②〉の運用が難しい(渡邊1996など)ため、中国人日本語学習者に対し、「意外な展開」

における〈継起②〉の指導と練習が必要であることが示唆された。

本研究では、継起的に生起している4種類の「意外な展開」に注目し、JNSとCNSの特徴について分析を行ったが、今後は異なる特徴を持っている場面を探し、JNSとCNSの特徴についてさらに検討したい。〈名古屋大学大学院生〉

付記

本研究は、東海国立大学機構JST次世代研究者挑戦的研究プログラムJPMJSP2125の助成を受けたものです。

注

[注1] …… 中国語の例文の翻訳は筆者が行った。

[注2] …… 「#」は聞き取れなかった部分を示す。

[注3] …… 今回のデータにおいて、JNSは、意外性を表すために、副詞的表現3例（「（親子が）あっと思って」（場面①）と、文末表現2例（「リンゴがその木から落ちてしまいました」（場面③））も使用している。しかし、使用数から見ると、意外性を表すために、主に接続表現に頼っているという結果が見られた。

[注4] …… 中国語では、接続表現だけでなく、一部の副詞も前後件を接続し、その構造的関係を表す機能を持っている（陳1989）。例えば、今回のデータで見られた副詞の「却（却って）」「反（逆に）」も逆接を表すことができる。

参考文献

石黒圭（1999）「逆接の基本的性格と表現価値」『国語学』198, pp.129-114.

市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版

烏日哲（2012）『中国語を母語とする日本語学習者の語りの談話における表現と構造—日本語母語話者との比較を通して—』一橋大学大学院言語社会研究科博士論文

加藤陽子（2003）「日本語母語話者の体験談の語りについて—談話に現れる事実的な「タラ」「ソシタラ」の機能と使用動機」『世界の日本語教育』13, pp.57-74.

許亜寧（2021）「中国人日本語学習者の「意外な展開」の語りにおける接続表現—場面別の分析を中心に—」『小出記念日本語教育研究会論文集』29, pp.55-70.

工藤真由美（1992）「現代日本語の時間の従属複文」『横浜国立大学人文紀要・第二類、語学・文学』39, pp.169-192.

小口悠紀子（2017）「談話における出来事の生起と意外性をいかに表すか—中級学習者と日本語母語話者の語りの比較—」『日本語／日本語教育研究』8, pp.215-230.

砂川有里子（2017）「ストーリーテリングにおける順接表現の談話展開機能」庵功雄・石

黒圭・丸山岳彦（編）『時間の流れと文章の組み立て—林言語学の再解釈』pp.183-215. ひつじ書房

陳美玲（1993）「日本語の「けど」「が」と中国語の“但是”系の比較研究—翻訳小説を例として」『言語文化と日本語教育』6, pp.47-58.

馬場俊臣（1999）「接続表現の省略可能性について」『札幌国語研究』4, pp.69-74.

渡邊亜子（1996）『中・上級日本語学習者の談話展開』くろしお出版

陳高春（1989）《实用汉语语法大辞典》职工出版社

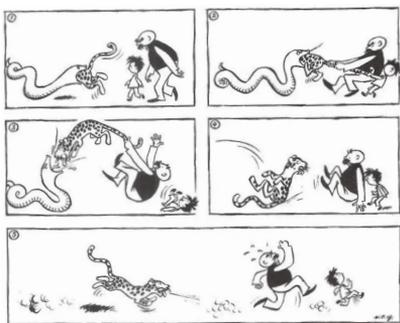
刘星（2019）《“结果”的词汇化和语法化研究》河北师范大学硕士学位论文文

王力（1943）《中国现代语法》商务印书馆出版

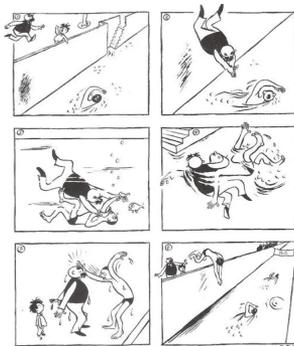
张道生（2000）《现代汉语虚词》华东师范大学出版社

資料

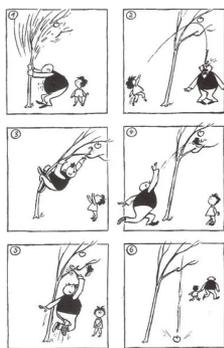
E. O. Plauen (1934-1937) Vater und Sohn. Berlin: Berliner Illustrierte Zeitung.



漫画 I



漫画 II



漫画 III



漫画 IV